

インターバンクの声（2015 年 12 月 30 日）

主要通貨ペアの中で、ドル円のスポット応当日（実際の受け渡し決済日）が昨日の時点で新年 4 日となり、例年だと外国勢を中心に新年の新たな取引として活発な取引状態に転じることも多いが、今年のドル円にそうした動きは見られなかった。反面、応当日がまだ年内 31 日にも関わらず、やや動きが急だったのがユーロ・ドルの取引だった。ニューヨーク市場の早い時間帯からユーロが大幅に売られ 1.09 ドル割れ寸前まで値を下げた。28 日に発表された商品先物取引委員会の統計でドルの買い越し幅が 1 ヶ月ぶりに増加したことがきっかけとなったらしいが、普通に年末までのポジション調整や原油価格の戻りが影響していた可能性もあるので今日の取引を確認する必要があるだろう。国内勢の中で今日何か特別に仕掛けようと考えている人が多いわけではないだろうが、気になるのは為替以上に日経平均株価がどういう大引けを迎えるかのほうで、午前中の値動き次第では多少ドル円にも影響するかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。